

ボートレースの話題が集まるメディア向け情報誌

プロペル PROpel



BOAT VISION

女子レースはボートがきっかけ

SOCIAL RELATION

日本財団が震災に迅速対応

BOATRIVIA

猿のターンって何？

2016_7 JUL
ボートレース PR情報誌



施設一新。58年ぶりのビッグレース

ボートレース鳴門

新 生

SG
NAVI

開設63年目! ボートレース鳴門に SGオーシャンカップがやってくる!!

7月13日から18日まで、ボートレース鳴門でボートレースの最高峰のレース、SGオーシャンカップが開催される。同レース場でビッグレースが行われるのは実に58年ぶり。もちろん地元は大いに盛り上がり、また全国のファンも鳴門の水面で行われるSGがどんなものになるのか、興味津々だ。



鳴門でのビッグレースは 1958年の1回のみ!

ボートレース場は、東は群馬県の桐生から西は長崎県の大村まで、全国に24場あるが、SGレースは高い売上が見込めるために、背景人口が大きなエリアで行われることが多く、



以前のボートレース鳴門。老朽化は進んでいたがそれはそれで風情があった

地方のレース場ではなかなか開催されなかった。それが近年ではネット投票などの充実で所在地の不利性が解消され、全国各地のレース場でも続々と開催されるようになった。もちろん鳴門での開催機運もあったのだが、施設の老朽化などがネックとなり、なかなか実現には至らなかった。

施設一新で待望の開催 穴水面での展開に期待!

そんな中、鳴門は2年前からレースの開催を休むことになった。地震対策の護岸工事が行われるため、それと同時に新スタンドの建設も決断された。これによりついにSGオーシャンカップが鳴門で行われることが決まったのだ。

それが伝わるとボートレースファンは沸い



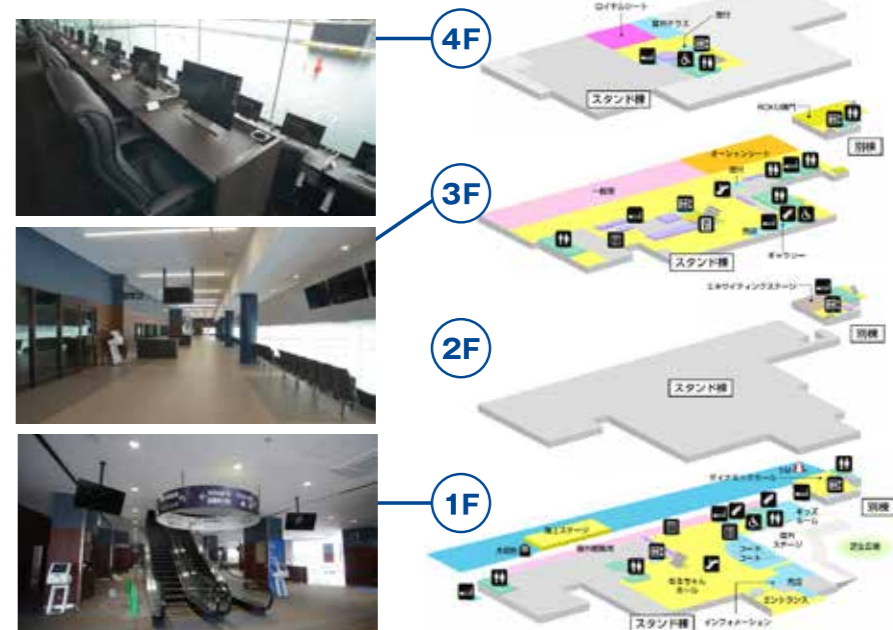
鳴門の水面。全国のレース場の中でも狭い部類に入り、それゆえ波乱のレースも多い

た。鳴門は全国のレース場の中でも“荒れる”レース場として知られているからだ。レース水面は狭く、また海峡付近にあるために潮の流れがはやく、うねりも出る。レーサーにとってはボートのコントロールがしにくい難水面なのだ。したがってレースが思わぬ決着を見ることが多い。ボートレースでは100倍以上の配当がつく舟券を「万舟券」と呼ぶが、鳴門はこの

ス鳴門に
る!!

生まれ変わった 鳴門は超コンパクト!

新設された鳴門のスタンドは、以前のスタンドに比べてほぼ半分のコンパクトな設計。舟券の購入や食事・観戦など館内の移動もラクラク。また、省エネに配慮したエコな作りだ。観戦エリアにはノンリブガラスと呼ばれる視認性に優れたガラスが使われ、レース展開をしっかりと追うことができる。別棟のダイナミックキャビン2Fではオープンスペースからの観戦も可能で、ボートレースの迫力を間近で楽しむことができる。また「なるちゃんeクラブ」の会員になればキャッシュレス投票もできる。



SGオーシャンカップ展望

王者 松井繁が 断然の好相性!



松井繁

絶対王者と呼ばれる大阪の松井繁が鳴門の実績では、勝率9点以上を記録しダントツ。6月の当地周年のフライングは気になるが、王者たる走りを期待したい。また同じ大阪の田中信一郎も当地は好走する。若手では篠崎元志に注目。鳴門での成績はさほどでもないが今年はGIレースで好調ぶりを見せている。



篠崎元志



田中信一郎

万舟券発生率が全国24場の中でも最も高い。この荒れるレース場でのSGで、どんな闘いが展開されるのか、ファンは熱い視線を送っているというわけだ。

全国からファン集結!

ボートレースのファンは、SG開催に合わせてレース場に旅行を兼ねて訪れる人も多い。スタンドが新装された鳴門であればなおのこと。7月13日から6日間、鳴門の街にボートレースファンがあふれることは間違いない。ただ、地元のファンにとってはやや残念なこともある。鳴門をホームとするレーサーの出場が今のところ決まっていないのだ。まだ出場権を獲得するチャンスは残っているので、それがかなえばパーフェクトなSGレースとなるはず。

鳴門で開催されるSGオーシャンカップ、熱い6日間が待っている。

※記事制作後に行われたSGグランドチャンピオンに鳴門をホームとする田村隆信と市橋卓士が出場予定。優勝すればSGオーシャンカップへの出場枠を獲得する。

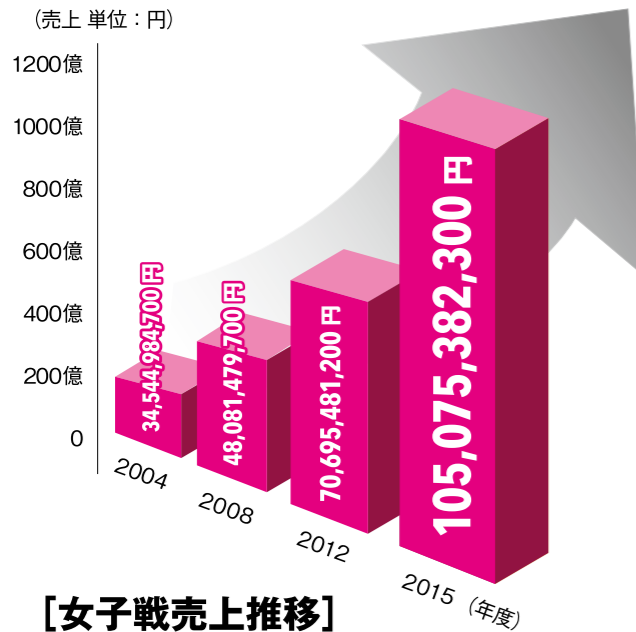


前年度優勝者 石野貴之

昨年のオーシャンカップはボートレース三国で行われた。石野貴之が超抜機を駆り予選から1着を連発、優勝戦も1コースから余裕の逃げで5年ぶりのSG優勝を飾った。

what's SG? SGってナニ?

SG (スペシャルグレード) レースとは、ボートレースに於けるレースのグレード (格付け) において、最高位に位置するもの。年間8回開催され、優勝賞金は2,500万円~1億円。ひとつのSGレースの開催で、売上はおおよそ80億円~150億円に達する。レースごとに選出基準は異なるが、多くの場合、A1級と呼ばれる最上位レーサーだけが出場できる。本年、鳴門で開催されるオーシャンカップは、海の日が祝日となったことを記念して新設された競走で、SGの次にグレードの高いGI競走で上位の成績を収めたレーサーたちが中心に出場する。



【女子戦売上推移】

驚異的な売上アップぶり

人気に伴い2015年度は2004年度に比べて売上が3倍増で、ついに1,000億円の大台を突破した。女子レースの白熱ぶりがうかがえる。売上が上がっている理由としては約1,600名のレーサー中、女子はおよそ200名であるため、レース傾向などの特徴が覚えやすい、つまり予想がしやすいということや、ネット投票の整備や場外発売場の増加により、女子戦に狙いを定めて投票するファンが増えたことも大きい。



母娘レーサーも出現

ボートレーサーには親子、あるいは兄弟・姉妹レーサーも多いが、昨年にはついに母娘レーサーも登場して話題となった。大山博美(写真左)とその娘、大山千広(同右)だ。娘が2015年にデビュー後、母娘対決も実現した。



男女対等のバトル

男女のレーサーと一緒に走る混合戦もある。男女で体重のルールは異なるが、ボートとモーターは同一規格で対等に競っており、2013年には混合戦のGIレースで平山智加(写真左)が優勝、ファンからも喝采を受けた。

公営競技

女子レーサーへの注目、そのきっかけはボートレース!

ガールズケイリンや女子オートレーサーなど、近年、公営競技での新たな女子レーサーの誕生が話題となった。その背景にはボートレースの女子戦人気がある。ボートレース界で女子レーサーが生まれたのはその歴史とほぼ重なる1952年。ただ、一昔前はそれほど人気のあるものではなかった。それが



ベテランも活躍

どうしても若手に注目が集まりがちだが、バリバリに活躍するベテランの女子レーサーも多い。実際、昨年の賞金女王は、デビュー25年以上経っても一線級に君臨する寺田千恵。昨年の賞金は4,000万円以上を稼ぎ出した。



写真集まで発売

女子レーサーには、かわいい、キレイなレーサーが多いと評判だ。そんな彼女たちの素顔を写した、撮りおろしの写真集まで発行されているほど。レース場では見ることのできない笑顔やドレスアップしたシーンが評判になった。

サーへの注目、レース!

21世紀に変わる頃から徐々に注目が高まり、近年では公営競技不況が囁かれる中、売上も毎年のように増加し、選手たちがメディアに登場する機会も劇的に増えた。そのブームに乗ろうと他競技も女子選手を登場させた、というのが関係者の見方だ。ここでは女子レーサーのアレコレをピックアップ!



続々と新人女子が登場

近年、レーサーを養成するやまと学校の入学試験を受ける女子も増え、実際に合格してデビューすることも多くなった。写真は今年3月に卒業した118期生。総勢25名の卒業生のうち、8名が女子だった。



先人の努力

写真は1993年頃の女子戦開会式の様子。一部に熱心なファンはいたが、売上も低く、女子戦は開催しない方針のレース場もあった。それでも頑張り続けた当時の女子レーサーたちが、現在の隆盛ぶりの基礎を築いたのは間違いない。



女子レースのビッグタイトル

以前は、女子レースのビッグタイトルはレディースチャンピオンのひとつだけであったが、人気上昇を受け、2012年にはクイーンズクライマックス、2014年にレディースチャレンジカップを新設、また来年2月末にはレディースオールスターの開催も決まっている。

brand NEW!

新設!レディースオールスター

2017年に女子レーサーのみによる新しいグレードレースが新設される。2017年の2月28日から3月5日まで宮島で開催される「GIIレディースオールスター」がそれだ。ファン投票により出場レーサーを決めるレースはこれまでSGボートレースオールスターがあったが、女子レーサーのみを投票対象としたグレードレースとして開催される。



熊本地震で素早い対応を見せた日本財団

ボートレースからの交付金が活かされています

4月14日に発生した熊本地震。震度7を2回も記録、度重なる余震と、活断層の影響の大きさに衝撃が広がった。被害も甚大なものとなったが、熊本城の再建を始め、いち早く支援策を発表したのは日本財団だった。

選手会も積極的に募金活動を実施



すぐさま支援金の受付を開始

ハンセン病撲滅やパラリンピック支援、福祉車両配備など、さまざまな活動で知られる日本財団は、災害復興支援でも大きな力を発揮している。東日本大震災後には「ROADプロジェクト」を立ち上げて東北復興に寄与。2014年には「災害復興支援特別基金」を設立し、甚大な災害に備えるようになった。特に行政ではカバーできない分野や、民間ならではのスピーディーな支援が有効なものとなっている。

熊本地震でもその機動力が発揮された。発生4日後の4月18日には支援策を発表。すぐにも必要とされる緊急対策資金として3億円、NPOやボランティア活動支援に10億円、熊本城再建支援に30億円、その他、見舞金や融資のための支援など、トータルで93億円にも上るものだった。

主要活動資金はボートレースから

その日本財団は、一般の人や企業・団体などからの募金を受け付けているが、主要な活動資金はボートレースからの交付金だ。ボートレースは舟券売上の25%が、開催経費や各団体への交付金に充てられるが、そのうちの約1割（売上の約2.7%）が日本財団への交付金となる。昨年度のボートレース売上は約1兆400億円だったので、日本

財団へはおよそ280億円以上が交付されることになる。この資金が人々の安全・安心、まちづくり、文化育成、途上国の発展や子どもの未来の為に使われることになる。

ボランティアはレーサーのDNA?

レーサーたちが繰り広げるレースの売上の一部が、日本財団へ交付されることで、レーサーたちのボランティア意識は昔からかなり高い。その象徴が昨年、SGボートレースダービーで初優勝した守田俊介だろう。同選手は優勝で得た賞金3500万円をすべて復興支援のためとして日本財団に寄付したのだった。今回の熊本地震のあとにも、出場レーサーたち全員が協力して賞金の一部を寄付したり、優勝したレーサーがまとまった金額を寄付することが相次いだ。また、ボラ



日本モーターボート選手会は、5月26日熊本県益城町において復興支援ボランティア活動を実施。倒壊した家屋から瓦を取り除き、屋内に残された文化財、農機具や家財等の搬出作業を行った。

ンティアや街頭募金を行う活動も各地で行われた。

ボートレースを主催する施行者（自治体）の復興支援意識も高く、東日本大震災後には各レース場の施行者からの寄付が相次いだ。今回の熊本地震に際しても、九州エリアの施行者である下関市、北九州市、中間市、行橋市、芦屋町、福岡市、唐津市、大村市で、募金活動やチャリティオークションなどが実施された。

このようにボートレース業界全体が一体となり、日本財団を通じて、熊本・大分での災害に対する取り組みを行っているのだ。



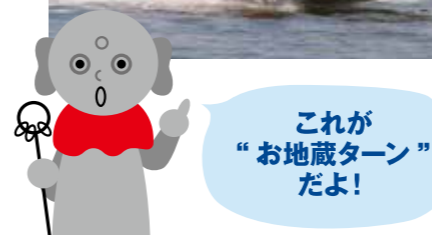
BOATRIVIA

～ボートの豆知識～

ボートレースを変えた!“モンキーターン”

昔はお地蔵さんが走っていた?

ボートレースを初めて目にとると、勝敗の行方は、自動車レースのようにハンドルさばきやエンジンの優劣で決まると感じるかもしれない。もちろんそれも重要な要素なのだが、実はそればかりではなく、“ボートに乗る姿勢”が非常に大事だ。特に旋回の際には、姿勢の制御で荷重の位置を変え、それによって高速旋回を行うことが決め手のひとつとなる。もともと、旋回姿勢はさほど重視されていなかったが、20年程前に新たな旋回姿勢として“モンキーターン”が確立されたのだ。以前は、正座から両膝を左右に広げたような姿勢でボートに乗り、旋回の際はスピードを落としてハンドル操作でターンを行っていた。今では昔を懐かしんでこの旋回を“お地蔵ターン”と呼んだりしている。これに対して現在主流の“モンキーターン”は、前傾しながら下半身はほぼ立ち上がっているような姿勢で、スピードを落とすことなく旋回することができる。



これが“お地蔵ターン”だよ!



抜群の旋回力

モンキーターンは、引退した飯田加一氏というレーサーが考案したと言われる。当初は結果が出なかったが、飯田選手がたびたび1着を取るようになると、若手レーサーたちがこのターンに注目、真似しはじめようになる。そして1993年、植木通彦（引退）がこのターンを駆使してSGボートレースクラシックを奪取すると、誰もがこのターンの習得を目指すようになった。レーサーたちの目には、それだけ破壊力あるターンテクニックと映ったのだ。それまでのお地蔵ターンはほぼ通用しなくなり、また新しい技の吸収が早かった若手がグングンと台頭、それまでベテラン優位と言われたボートレースで一気に世代交代が進んだ。今では植木通彦が校長を務めるレーサー養成学校でも、カリキュラムの中でこのターンを教えている。

レースタイムも高速化

モンキーターンが、それまでのお地蔵ターンと圧倒的に違ったのは、スピードだ。それまでのスローダウンした旋回ではなく、ほとんどスピードを落とさないように見える旋回によって、レースタイムもグッと速くなった。600mのコース3周で1分48秒程度のタイムが、徐々に早まり、ついには1分42秒前半まで縮まったこともある。すべてがターンによるものではないとはいえ、その効果が大きかったことは間違いない。

そして、今ではモンキーターンもかなり多様化が進んでいる。ボートの外側にはみ出してしまおうかと思えるほど伏せ込む、あるいは旋回の後半にボートを持ち上げるようにしたり…etc. 特に過去10年以内にデビューしたレーサーたちには、モンキーターンの新たな将来も感じられる。ボートレースでは、レーサーそれぞれのターンに注目するのもオススメだ。

モンキーターンの使い手たち



前が見えるのかと思えるほどボートに覆いかぶさる峰竜太。進化系モンキーターンの使い手だ。



昨年の賞金王、山崎智也。若い頃から台頭した天才肌だが40代となっても健在、スムーズなターンで魅了する。



池田浩二は、ターンの後半でボートの船先を浮かせて旋回するウイリーモンキーの使い手として知られる。



昨年8月にはSGボートレースモリアルでも優勝した篠崎元志。若きテクニシャンで、弟も実力派レーサー。



若い世代を引っ張る桐生順平。1着を諦めないアグレッシブな走りであっという間にトップクラスに。

日本財団の紹介



日本財団に関する情報はこちらから ▶ <http://www.nippon-foundation.or.jp/>
 日本財団会長 笹川陽平ブログ ▶ <http://blog.canpan.info/sasakawa/>

民の立場から公への貢献をモットーに内外の現場で公益活動を実践。
 年の三分の一を海外活動に充て、海外情報や時事問題など多角的視点から情報を発信しています。

日本財団会長の
 笹川陽平ブログ



全国ボートレース場の紹介



徳島県鳴門市の四国本島と大毛島に挟まれた小鳴門海峡に位置するボートレース場。4月に新スタンドが竣工。非常にコンパクトな造りで、バリアフリーにも対応、館内の移動もスムーズ。エントランス横には広い芝生広場があり、大きなレース中は臨時的な発払機も設置される。1Fは多目的フロアで、フードコートや売店、キッズルームがあり、またマスコットキャラクターの名前を使った“なるちゃんホール”はレース以外のイベントにも使用可能。3Fには一般席と有料指定席のオーシャンシート、4Fは有料指定席のロイヤルシートがある。また別棟の「ダイナミックキャビン」3Fには特別観覧施設ROKUが設置されている。いずれもキャッシュレス投票に対応し、また場内には公衆無線LANを完備している。



- **3F オーシャンシート**
 シングル1,000円 (日祝2,000円)
 ペア1,500円 (日祝3,000円)
- **4F ロイヤルシート**
 シングル2,000円 (日祝3,000円)
 グループ6,000円 (日祝9,000円)



交通アクセス

- 車で越しの方** 神戸淡路鳴門自動車道「**鳴門北IC**」から約8分
 ● 明石海峡大橋、大鳴門橋を利用…神戸から約80分、大阪から約120分
- 電車で越しの方** JR鳴門線「**鳴門駅**」から歩いて約18分
- バスで越しの方** 高速バス 徳島バス・JR四国バス 停留所「**高速鳴門**」から歩いて3分
 無料バス レース開催日にJR鳴門駅、徳島駅、県西部、淡路島方面から運行
- 飛行機で越しの方** 徳島阿波おどり空港から車で約17分

ボートレース鳴門



● 詳しくはウェブサイトでご確認下さい。 <http://www.n14.jp> ボートレース鳴門 🔍

取材の申し込み・お問い合わせはこちらまで



広報部 〒108-0073
 広報宣伝課 東京都港区三田3-12-12 笹川記念会館

TEL 03-3451-0501

FAX 03-3451-0429

BOAT RACE 振興会ウェブサイト
 ▶ <http://www.boatrace-pr.jp/>
 BOAT RACE オフィシャルweb
 ▶ <http://www.boatrace.jp/>

BOAT RACE
 振興会ウェブサイト



「ISO/IEC27001:2005」を
 認証取得

BOAT RACE 振興会は、2010年7月25日付で、
 全部門を対象とした情報セキュリティマネジメン
 トシステム (ISMS) の国際認証基準「ISO/
 IEC27001:2005」を認証取得しました。

編集後記

みなさんこんにちは♡ボートレース広報で『PROpel』制作を担当している安藤です。大学を卒業後、ボートレースのボの字もわからないまま入社、広報部に配属されて早2年と3ヶ月が経ちました。最近ようやくボートレースのーの字くらいまで分かってきた気がします。「レース」のーじゃないですよ、「ボート」のーです。まだ2文字目。奥が深いです、ボートレース。

そんな飲み込み遅めな私が入社当初から携わっている『PROpel』の2016年度第1号が発行となりました。実は昨年度までとは大きく雰囲気が変わっていますが、気付いた方はいらっしゃるでしょうか。鳴門レース場のように、『PROpel』も全面リニューアルです。2年がかりの大規模改修と一緒にすると言われてそうですが、気になる方はBOATRACE振興会ウェブサイト(左記参照)でバックナンバーを紹介しているので、ぜひそちらもご覧ください。それでは今年1年、新生『PROpel』と編集後記をお楽しみに!!



入社3年目 編集ディレクター
 安藤 瞳